

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572100842
	医療法人社団慶城会
	グループホーム 仰星台 入綾
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰丙1494-1 (電話)0982-50-7080

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 20年 9月 24日

【情報提供票より】(平成20年9月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円	
敷 金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院	土田歯科
---------	------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの職員は「安心・安全、入綾でよかったなー」と利用者や家族に実感してもらえ、笑顔が見られることを喜びとして日々のケアに励んでいる。地域の中のホームになりたいと地域との交流にも努め、今年初めて地域の協力を得て、夜間を想定した災害対応訓練を実現させている。ホームの近くには市立病院や地域自治センターもあり、また道路に面しているので門を開けることが増えることにより、これからも地域との交流がさらに期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である理念の見直し共有・運営推進会議の定期開催・介護計画等の見直し・市町村等との日常的な連携・地域協力の避難訓練等いづれも運営者・管理者・職員間で共有し積極的に改善に取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を運営者・管理者・職員で共有し、職員勉強会で改善策を検討し実践に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に行うことができようになり、ホームを理解してもらう段階から、現在はホームが取り組むテーマを明示して、意見をもらったり、ホームでの催し事の参加を呼びかけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話などでいつでもどこでも意見、苦情等を受けとめるようにしており、受けとめたことを職員全体で共有し対応し、運営に活かすようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の掃除やお梅やみにも関わり、地域の夏祭りには利用者全員で参加した。地域との交流やボランティアの来訪もあり、12月には保育園児のおゆうぎ会を全員で見に行くのを楽しみにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で考えて、「入居者の思いに寄り添い、残存能力を生かした自立支援、家族・地域社会との関係の継続やふれあい」を大切にするという内容を3項目にまとめ、自分達のことばで表現した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々のサービス実践に努めており、「これが地域密着型」と自発的なことばが折々各職員から出るようになった。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の班に加入しており、地域の掃除や、お悔やみにも関わり、地域の夏祭りに利用者全員で参加している。ホーム横の堤防の草刈を隣人がして下さったり、堤防を通る人達が利用者に向かって手をふってくれたり、時には地域の人や園児が立ち寄ってくれる。ボランティアの来訪もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を運営者・管理者・職員で共有し、職員勉強会で改善策を検討し実践に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、消防部長、公民館長、民生委員、行政担当課、ホーム管理者、職員で3か月毎の定期開催となり、ホームを理解してもらう段階から、現在はホームが取り組むテーマを明示して、意見をもらったり、ホームの催し事の参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ書類提出のため出向いたり、社会福祉協議会へホームのパンフレットを持参するなど連携や馴染みづくりに努めている。民生委員の視察研修を受け入れ、ホームを理解してもらおう努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料を直接持参してもらうことで、利用者と面談してもらったり、ホームからの報告や状況を伺う機会としている。来訪のない家族には本人の意向を確認して、電話で利用者と家族等が話す機会を作っている		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常々家族等からの意見を受け止めるよう心がけている。ホームだよりも発行するようになったので、これからはさらに利用者や家族の要望をどう引き出して、サービスの質向上へつなげていこうと望まれる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動があり、交代してもサービスが継続できるように引継ぎを十分に行い、利用者の気落ちが少ないように全職員で共有しサービス維持に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修の機会を得るようにしており、外部の研修も活用しており、職員も意欲的に受講している。受講は公務である。受講後は復命して全職員と共有し、サービスの質向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は毎月1回同業者との会議に出席し交流研鑽している。職員も利用者と共に他の事業所や関連施設へドライブを兼ねて見学を行ったりしてサービスの質向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用開始が他の施設や病院から直接だったりすることもあり、職員は家族の協力を得ながら、ホームが安心して過ごせる場所として早く馴染めるように関わりを蜜にして工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から梅干や保存食の作り方を習ったり、戦争体験談から当時の生活様子を教えてもらっている。杵で餅つきした喜びをうれしそうに語られるので、ホームでの正月の餅つきを杵について喜び合った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方を支援している。編物の得意な利用者には、楽しみながら編物が出来るよう出来あがりと共に喜んだりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の笑顔がみれるようにと、職員・利用者・家族が思いを交換しあいながら介護計画を作っている。職員は月1回の勉強会を意見交換の貴重な機会としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は利用者の日々の状態を把握し、利用者や家族等の要望等も含めながら、介護計画の見直しを3ヶ月に1回行い、評価もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望での通院の送迎を行ったり、ボランティアを受け入れて日本舞踊や、音楽療法を取り入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医師や医療機関に受診できるよう、受診支援日を設けて支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが現時点において対応できる最大ケアについて家族に説明し、重度化に伴う同意書が作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりを尊重した姿勢で日々のケアをしている。利用者への声かけも穏やかな音声を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその日をどのように過ごしたいか配慮し、出来る限りの支援をしている。道路を通る学童に手をふったりされるので、玄関前に長椅子を置こうと計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好みを聞いたり、食材は旬のものや家庭料理など、利用者が食事を楽しめるものとなるよう心がけている。準備や片付けが一緒にできない利用者には切ってる所を見てもらい食べる時の料理の話題に繋げている。職員も同じ物を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意思を尊重した入浴支援である。毎日入浴が楽しめるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ方などの役割、時には外食などの楽しみごとで日々に変化や楽しみ、喜び合えるよう工夫している。音楽療法を楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には連れ立っての買い物やドライブなど、また外食も喜ばれるので戸外に出る機会を作るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは国道に面しており、交通量の多いことから門に鍵をかけているが、職員数が多い日は夕方まで鍵をしていないこともある。居室や玄関には鍵をかけていない。		地域の方たちが気軽にホームを訪ねることがさらに増えるよう、門の開放に工夫してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で利用者共に年2回の避難訓練、職員交代での通報訓練は随時行っている。今年初めて地域の協力を得て、夜間災害を想定した訓練で隣人が門の開放役、地域消防団2名も参加。実施までのレイアウト作り、地域や消防団等へ重ねての協議・働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事中的見守りや声かけ、利用者一人ひとりその時の状態・食欲に応じての支援を行っている。水分摂取にも配慮されている。		利用者の好みも入った献立になっているが、栄養士等からの栄養バランスなど専門的な助言を得る機会があるとさらに充実するのではないだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく季節感のある居心地よい共用空間である。利用者はゆったりと腰かけている。畳もあり好みの過ごし方ができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたものや好みのものがあり、その人らしい雰囲気である。		